

2010年度7月度の総括

すべての「進学塾ビッグバン」に集う皆様へ

【資料1】

寺脇 研(てらわき けん、1952年7月13日 -)は落語評論家、映画評論家。カタリバ大学学長、京都造形芸術大学芸術学部教授、特定非営利活動法人日本映画映像文化振興センター副理事長、コリア国際学園理事。元文部官僚。文部科学省大臣官房審議官等を経て、広報調整官を最後に退官した。多くの肩書を持つが、2009年現在の肩書は『落語評論家』である。

その略歴

当時九州大学医学部講師で後に鹿児島大学医学部小児科教室教授となる医師の父の長男として福岡県福岡市で生まれる。外祖父も医師で九州大学総長を務めた。10歳まで福岡で過ごした後、鹿児島県に転居。ラ・サール中学校に首席合格。中学二年生の時、成績が急降下したことで医者である父は激怒し、寺脇の好きな書籍や将棋盤をすべて海に廃棄し、「お前は医者になるのだ」と勉強部屋に彼を軟禁。世の中を悲観した寺脇はこのときガス自殺を試みている。ラ・サール高校を卒業後、高校卒業時の成績は250人中230番台であったが、卒業式では卒業生総代として答辞を述べ、高校卒業後は現役で東京大学に入学、法学部に進学した。

1975年、文部省にキャリア官僚として入省し、1992年には職業教育課長就任。広島県に教育長として出向(1993年-1996年)した後、文部省に復帰した。事務次官有力候補者が任命される官房三課長には就かなかったものの、大臣官房政策課長を経て、いわゆる中二階ポスト(局次長・審議官・部長)である大臣官房審議官(生涯学習政策担当)に就任した。この間、同省の推進した「ゆとり教育」政策に関して、マスコミの前面に出て同省の見解を説明するスポークスマン的な役割を担った。

2002年、大臣官房審議官から外局である文化庁文化部長に異動となった。2006年4月、同省の事務方より退職勧奨を受けるが、小坂憲次文部科学大臣に慰留されたこともあって辞職せず、中二階ポストから寺脇のために新設された課長級に当たる大臣官房広報調整官に就任するという異例の降格人事となった。その後、2006年11月10日付で文部科学省を辞職した。現在は東大卒の元文部官僚との冠付きで関西ローカル番組によく出演している。

教育の「専門家」として

文部省・文部科学省在任中は、初等中等教育政策に深く関わったことから、教育に関する著作が数多い。また、在任時には、いわゆる「ゆとり教育」「脱偏差値」「学校週5日制」「総合的な学習の時間」「生涯教育」などの旗振り役として同省の立場を国民に伝える役割を果たしたため、「ミスター文部省」と呼ばれた。

そのため、「ゆとり教育」を中心としたこれら一連の政策への批判が高まるとともに、個人としても批判を受けることが多くなった。例えば、元産経新聞論説委員の高山正之からは、小尾庸雄・鳩山邦夫と並んで、日本の教育を崩壊させた戦犯だと批判されている。

2002年に文化庁へ異動となったのは、文部科学省が批判をかわすためであったと言われているが、文化庁への異動後も、「ゆとり教育」推進の立場から発言を続けた。

文部科学省退官直前には、「今後も教育や文化について、民間の立場から取り組んでいくと述べ、その後も「ゆとり教育」推進の立場からの発言や著作を続けている。

また2007年には、在日コリアンの子弟を主な対象とするインターナショナル・スクールコリア国際学園の設立準備委員に就任し、開校後は理事を務めている。ちなみにこの学校は、3ヶ国語の育成や大手進学塾との提携をしている。

上記の通り、日本国内の公立学校に対しては授業内容の大幅削減を行い、在日コリアン向け学校に対しては徹底したエリート教育を施す土壌を作った。寺脇氏と韓国との関係については下記映画評論家の項にも記載有り。退官後も制度の手の届きづらい方面への支援を続け、NPOカタリバが主宰する高校生支援・キャリア学習プログラム「カタリバ大学」の学長を務める。

(Yahoo Wikipedia(一部改変)より)

watega_daemon3090さん

『ゆとり教育』導入者の寺脇研が在日韓国朝鮮人のための『詰め込み式』のバリバリの受験学校に勤めているのは何故ですか？

ベストアンサーに選ばれた回答

nightdancer6160さん

第一段階、『ゆとり教育』推進

日本国民をおバカにするのが、目的。

日本国民が、おバカになったら、

第二段階、エリートの在日が支配者となって、日本を乗っ取る。

手段、日本乗っ取りのために『外国人に選挙権を与える』という運動を、民主党にさせている。

【補足】

コリア国際学園、大阪で開校へ。

「コリア国際学園」というこの学校は、在日韓国・朝鮮人の人たち、とりわけ教育 "在日オールスターが役員に"なり、コリア国際学園として大阪・茨木に来春開校。理事長は姜尚中氏、「ゆとり」旗振り役の寺脇氏も参加。

注) 政党で外国人参政権に積極的なのは公明党や民主党や日本共産党や社会民主党で、公明党は永住外国人の地方選挙権の付与をマニフェストに掲げており、度々 民主党は結党時の「基本政策」に「定住外国人の地方参政権などを早期に実現する」と掲げている。

民主党は外国人参政権付与だけでなく、彼等の人権を擁護するための人権擁護法の成立にも熱心である。
(同Yahoo 編集日時:2007/11/17 07:13:13 回答日時:2007/11/16 21:36:07)

【資料2】

ここに国立大学協会の作成したグラフ<略>がある。6月22日に閣議決定された「財政運営戦略」の「中期財政フレーム」では23年度から3年間「基礎的財政収支対象経費」は前年度を上回らないよう方針が示された。年率8%の削減を機械的に国立大学法人運営費交付金にあてはめた場合、削減額は初年度だけで約927億円に上る。22年度までの7年間で達成した同交付金の削減額830億円を単年度で上回る法外な額であり、それは3年間続き、削減総額は累積で2564億円に達する。仮に927億円の削減のしわ寄せを授業料でまかなうとする。すると学生1人あたり年23万円の値上げが必要だ。研究経費を削って捻出(ねんしゅつ)する場合は、現状の32%減(約1954億円)となる。さらに特定大学の交付金停止で対応した場合をまとめたのが、グラフである。927億円というのは大阪大学と九州大学の2大学を消滅させればちょうど捻出できる規模だ。グラフで明らかのように東京大学の交付金をなくすという選択もあるが、それだけでは927億円は捻出できない。東大をゼロにしても翌年には京都大学もゼロにせざるを得ないし3年たてば、大阪大学も東北大学も対象にせざるを得ないという削減の規模だ。逆に交付金の額の少ない大学から削っていこう。グラフの愛知教育大から小樽商科大の27大学が交付金ゼロ。このなかにはお茶の水女子大学も東京外大も含まれている。さらに二年目の削減対象校14大学でこのなかには一橋大学も含まれ、3年間で50大学以上の交付金がゼロになる。ちなみに川端達夫文科大臣の地元、滋賀県には二つの国立大学があるが、初年度に滋賀大学をつぶし、次の年には滋賀医科大学をなくせば、政府の方針は達成できるのだが、滋賀県からは国立大学がなくなるかもしれない。奥石東氏の地元、山梨県からも国立大学はなくなるかもしれない。念のため付記すれば、交付金をゼロにする大学名がすでに決まったわけではない。これはあくまで政府の方針を達成するための試算であって削減方法も多様なはずである。ただし、削減率はこの試算では8%と設定されていたが、現実に政府が課している削減率は10%である。交付金を削って政府の目標を達成するという選択を実行すれば、半端な影響では済まないことは読み取れる。交付金がゼロでも、直ちにすべての大学が即つぶれるという話でもないことも付け加えておく。病院収入など別の収入源があれば、それで負担を軽減することもある程度は可能だ。だが、教員養成系大学のように、ほぼ収入源を授業料と交付金に頼っている大学も多い。仮に教員養成大学がつぶれば、地域の教育など大きな波及があるのも見逃せない。知の基盤の崩壊といっても、ピンと来ない人も多いかもしれないが要は社会への人材輩出源だった大学がそうではなくなるかもしれないという話だ。高校は事実上、義務化されたが、そのあおりで大学進学は高根の花となるかもしれない。民主党が意図的にそう

いう政策を掲げてこうなったという話ならば、まだわかる。大学については「くだらん大学が多すぎる」といった批判が多いのも事実だからだ。だが、きちんとした議論もないままに財政上の逼迫を招いた結果、大学が破綻していくのは失策であって、正当化される話ではないことはいうまでもない。(安藤慶太・産経新聞社会部専門職の文による)

【資料3】

民主党の枝野幸男幹事長が「第41回衆議院議員選挙(1996年10月20日)立候補者の推薦に関する覚書」を交わした相手は、時の政権が、極左暴力集団「革マル派活動家が相当浸透している」と認識してきた労働組合(JR総連及びJR東労組)なのである。〈略〉革マル派は、政府の答弁書にあるように、中核派など対立する党派との間で100人近い死者を出した血で血を洗う内ゲバに、文字通り血道を上げ、神戸の「酒鬼薔薇事件」に際しては、「事件は国家権力による謀略」という荒唐無稽な主張に基づき、病院からA少年の検事調書を盗み出し、A少年の両親の自宅を盗聴、A少年の冤罪を訴えるといった異様な行動をとった団体である。こんな「極左暴力集団」が「相当浸透した」労働組合と、政権与党の幹事長が、「連帯」するとは、いったいいかなる事態なのか？

(山村杏樹「枝野幹事長が交わした「魔の契約」新潮45 2010年8月号」より)

7月は、参議院議員選挙があり、民主党の大敗、国政は、ねじれ国会の現出という事態に至りました。日本の政治の迷走はまだまだ続きそうです。この迷走がいい方向へ收拾すればいいのですが、必ずしもそうならないのではないかとということが、上記3つの資料からもうかがえます。【資料1】は、かの悪名高き「ゆとり教育」の旗振り役だった、元文部官僚の寺脇研氏の経歴をつづったものです。彼は私と同じ1952年生まれで、しかも同じく「田舎者」ですから、だいたいどんな本を読み、どんな音楽を聴き、どんな社会的事件に影響を受けたかを推察することができます。またこの年生まれは「大物はいない、変わり者ばかり」の年周りだと言われ続けた世代です。干支が辰で、十二支のうちで唯一の架空の動物ということで、いつも夢見てばかりで地に足がついていない世代だと言われたこともあります。寺脇氏が歩んだ道も、鹿児島ラサールから現役で東大とはいえ、官僚の中でも大蔵省や通産省と比べ下位のそしりを免れない文部省入省という、もう一つエリートにはなり切れないかたちをとったことでも表れています。

この屈折したエリートが、日教組ならぬ、文部官僚として「ゆとり教育」を推進し始めた時、誰もが、その理念に着目しました。「車のハンドルも、“遊び”が大事だ、“遊び”がないと、ハンドルを回す時の力がすぐ伝わってしまい、大事故にさえなる。」という比喻を引っ提げて「ゆとり」の効能をまことしやかに説いていたからです。その比喻は結構な説得力を持ち、日本の子どもたちに、家庭と学校の両方から、生きていく力を身につけさせる最高の理念であると、当時のマスコミもずいぶん持ち上げたものでした。周知のように、「ゆとり教育」は数年以内に全否定されるに至りました。円周率「3,14」を「3」とし、台形の面積を求めさせる単元を止めにしてしまう「ゆとり教育」の無意味さと危険を説いて警鐘を鳴らしたのは、私の記憶する限り、中学受験大手塾の講師たちでした。そして、日本人本来が持つ勤勉の美意識に目覚めた、心ある、しかし、どこにでもある市井の日本人によって、文部科学省の官僚たちをいともたやすく心変わりさせ、「ゆとり教育」は排除される方向に向かっていきました。けれども「ゆとり」がまき散らした公立学校の先生たちの怠慢癖、責任回避癖は一向に直る気配はなく、学習現場にも労働現場と同じく週休2日制とすべきだとの日教組的意見は依然残存しています。一方「ゆとり」推進派の寺脇研氏は、断罪されることもなく（彼が大好きな？「北朝鮮」なら、今頃は銃殺でしょう）しかるべきポストと収入が約束された日々を送っています。それより、寺脇研氏を許せないのは、彼が新たに招かれて得た職の一つである、インターナショナル・スクールコリア国際学園という中高一貫教育を旨とする、主に在日韓国朝鮮人子弟の通う学校において、「ゆとり」どころか、受験のための「スパルタ式」教育を推進していることです。寺脇研氏が、一貫して「ゆとり教育論者」であればそれはそれで納得できますが、許せないのは、片や日本人の子弟に対しては、「ゆとり」という名の愚民教育を推進し、片や在日韓国朝鮮人の子弟に対しては、エリート大学に入るためのスパルタ式受験教育を施す、という何とも「売国奴的」態度をとっていることです。この不可解さは、1952年生まれ特有の時代背景と、もしかしたらこの年生まれ特有のDNA がもたらしたものと解釈することもできます。こうした流れは、例えば、子ども手当を、子どもを外国に住まわせている在日外国人にも支給する代わりに、在外邦人には一切支給しないと、高校授業料無料化を何と朝鮮総連傘下の朝鮮高級学校にも及ぼすとか、わけのわからないことをする民主党政府とよく似た動きを行っている、あるいは連動している気がしてなりません。【資料2】のように、日本の知

的財産の最大の発信地である大学の研究費をこれでもかというほど削減するのに、です。今のビッグバンに通う世代が、ちょうど「ゆとり教育」の犠牲者の子たちです。私たちが現場で教えていて感じる彼らの特徴は、まず「高校までに学んでおくべき受験に必要な知識が圧倒的に不足している」ということです。彼らのせいばかりではありません。学んでいないのではなく、教えてもらっていないのです。特に、公立中学、公立高校に通っていた生徒にその傾向は著しいです。大学が問うてくる問題の質は今も昔も変わっていないので、公立の中高で課される受験勉強を唯々諾々としていただけでは、しかるべき大学入試において合格点をもらえない仕組みになっています。幸いビッグバンの公立高校出身者は皆飲み込みが早く、しかもよほど家庭がしっかりしていたのか「ゆとり」の悪影響も受けずにしっかりとした勤勉さを身につけていますから、心配はほとんどいりませんが、世間一般では、この世代は上と下の世代から、「無能で無気力」との批判を向けられていることの多い気の毒な世代であることも事実です。

私の家は、上の息子が中学受験に失敗したため中学は地元の公立に通わせました。父兄参観日に、二度ほど父親として参加しましたが、とても見られたものではありませんでした。私が参観させていただいた英語の授業では、親がいることなど無視して堂々と居眠りを決め込む生徒が数人いる教室で、無気力そのものといった男性教師が下手な発音、小さな声でぼそぼそと英語のテキストを読み、やる気のありそうな女子生徒数人にあてて訳させ、それを口頭で誉めるわけでも添削するわけでもなく次に進む、といった、何とも目もあてられない授業をしていました。そばにいた別の父兄の方が、苦笑いしながら、この先生は日教組に属していて、「日の丸・君が代」に反対する時だけは元気だ、と耳打ちしてくれました。私は苦笑いすら返せず、うちの塾だったら5分でクビにするだろうな、と思いつつ、授業に心から入って行っているのかどうかかわからないが、とりあえず微動だにせず授業を受けているわが子の後ろ姿がとても不憫に思えてきて、わが子がこんなひどい目にあわされているかと考えると、下の子は絶対お金がかかっても公立には行かせられない、と決意し、ここまで日本の公教育を破壊した寺脇研氏らへの言い知れぬ敵愾心は募るばかりでした。公立中、公立高校にお子さんを通わせた全国の親御さんらは寺脇研氏を吊るしあげられてもいいと、今でも思うほどです。

【資料3】を読んだ時、私は得心しました。民主党の枝野幹事長が革マル派とつるんでいた、という事実には驚愕したわけではありません。枝野氏ら民主党の一部の議員たちは、革マル派をはじめ、ロシア革命の立役者レーニンを信奉するレーニン主義者たちが金科玉条視する「革命的祖国敗北主義」に毒されているのだな、ということに気付いたからです。「革命的祖国敗北主義」とは読んで字のごとく、自国が、革命を成就した共産主義国と交戦した場合、あくまで自国(=祖国)を敗北に導くよう工作すべし、という思想です。それは自国の帝国主義を打ち破り、共産主義国を勝利させ、世界共産主義革命へと導く主体的な行動であって、民族主義にとらわれた愛国思想などはここにおいて一刀両断されてしかるべきだ、とする思想です。そう言えば、そんな思想が左翼運動家たちの間にあったな、と思う方も多いでしょう。いわゆる「反日思想」です。おそらく日本が豊かであったために、豊かさへの反省から、日本そのものを全否定しようということまで行きついたときによすがとして、この「革命的祖国敗北主義」は魅力的に映ったのだと思います。革マル派や日教組、自治労左派など、「豊かで不敗の日本の政治と経済」伝説の中に今だいる人たちが、空疎なインターナショナリズムをわめき続けている中、かつて日本がひどいことをした、永遠に贖罪をしなければならぬ「100%被害者の国」「良心の固まりの国」と思っていた中国や韓国が、実は、国内でしっかりと「反日教育」を施し、それを忘れないために施設まで作り、共産主義思想とはおよそ相容れない強い「ナショナリズム」に満ち溢れた経済と外交を展開する時、政治においても、外交においても、教育においても、ナショナリズムを全く欠落させていた日本の今後は、とても憂うべきものになると言わざるを得ません。ビッグバンの生徒が大人になる頃、この日本は、彼らにとって「世界的に名誉ある豊かな国」たり得ているのでしょうか。それどころか、「きちんと食べていける国」にさえなり得ているのでしょうか。

1952年生まれ特有の時代背景とは何か、に話を戻しましょう。中学生のころにイギリスにビートルズが現れ、それが先進国の若者に多大な影響を与え始めました。日本では、グループサウンズがはやり、スパイダースやブルーコマッツなどが人気を博しました。中学生、高校生にとってみれば、エレキギターを買ってもらえる家と、買ってもらえない家があり、私は買ってもらえない家でしたが、買ってもらえる家の子も、もらえない子を前に「わ い、わ い」と喜びを口にできるほど空気を読めないわけではなく、そこには、子ども心に微妙に貧富や階層を意識させる風も流

れていたわけです。小学校の頃に、少年サンデー、少年マガジンなどを毎週買ってもらえる家と、その家の子に読ませてもらう家の子(私のところは3週間に一度買ってもらえる家でした)という時に感じた幼い階層意識よりはもう少し進んだ意識だったと思います。それは中学生・高校生にとってエレキギターが弾ける、バンドが組めるということイコール女の子にもてることにつながり、足が速いとか、スポーツができるから女の子にもてる、だから羨ましいんだということに近い意識に進化しただけで、いわゆる「意識が高まった」わけではありませんでした。エレキギターも買ってもらえない、漫画雑誌も人に見せるほど買ってもらえない、スポーツもさほどできない、容姿も端麗ではない、ただ勉強だけちょこっとできる、親も進学に関しては理解がある、進学校に行くためには下宿までさせてもらえる、そんな高校生だった私が「女の子にもてる」ために狙えた唯一の道は、おりしも左翼学生運動の時代であったため、古今東西の思想家の主流王道であるマルクスやレーニンではなく、むしろその脇にいるマルクーゼやローザ・ルクセンブルク、あるいは斜に構えて実存主義に逃げ、サルトルあたりをちらちら小出しにしつつ理論武装すれば、という「祈りにも似た？」意識でした。一方で田舎の仲間たちと別れ、一人秀才たる存在として祭り上げられた者としての意識も厳然とあり、彼らのために都会で立派にならなくちゃ、なんていう殊勝な気持ちでもいました。そのためにどうしても東大に行きたい、東大に行ってこの国を変えたい、そうすれば故郷に錦を飾れる、なんていう意識もありました。おそらく四国の片田舎から東大に入った官房長官：仙石由人氏や山口県田舎から東工大に入った首相：菅直人氏らも、そうした青雲の志を抱いていたに相違ありません。仙石氏と同じ東大紛争にかかわった故藤原伊織氏の書いた直木賞作品「テロリストのパラソル」では、ビートルズではなく、日本のグループサウンズの、しかも主流どころではないザ・ゴールデンカップスというグループの「長い髪の少女」を偏愛する主人公を登場させています。あのころ背伸びしながらビートルズについて語っていた若者も、実は二流三流どころのグループサウンズの「わかりやすさ」に魂のよりどころを見ていたのでしょう。キタ新地の有名なレストランのフランス料理よりも、茨木の駅前のパチンコ屋の裏通りでパンを停めて夫婦で焼いているたこ焼きの方が実はおいしい、みたいなもので、夢を実現するために都会に出ていき掴みかけていたと思えた「世界」は、一気に、故郷で少年のころに親しんだものへと収斂してくるのを覚えたものでした。そして都会で出会った「故郷的なもの」

それが日本における中国、韓国及びアジアの人たちが自分たちに向けてくる、複雑なまなざしでした。下品で率直で、垢抜けてなくて、親切で、お人好しで、うるさくて、やさしい…久しく都会で味わうことのなかった「故郷的なもの」を、彼らの中に見ることができたのも、涙が出るほどうれしいものでした。しかも複雑なまなざしの由来は、わが国がかの国の人々に対しておこなった侵略、占領、差別だということもわかっていました。私たちの世代は、B級グルメに舌鼓を打ちながら、全共闘世代が見せてくれた「アジアの人々との連帯」を生き、それで日本を運営していこうと、けなげにも決意するのです。

また、私の入学した大阪外国語大学には、土地柄か、創価学会の学生が多くいました。選挙の時には日本共産党の下部組織の民主青年同盟の学生たちと同様、公明党の応援にずいぶん熱心に取り組んでいました。エネルギーで魅力的な学生も多く、望んで入ったわけではない大学でしょげかえていた私に程よい刺激を与えてくれました。私にどうしても「南無妙法蓮華經」を言わせたい彼らに対して、「お前ら池田大作の弟子すなわち犬、すなわち池田犬作どもに俺のエスがわかるか。わからねえだろう。己の身分をわきまえろ。わきまえなければ今ここで死ぬ。」などと毒づくときさすがに温厚な創価学会の学生たちも気色ばんで殴りかかってこようとなりました。止めに入ったのが少し年上と思しい京大の学生上がりの学会員でした。一目でなかなかの人物と思いました。「お前らに松原は祈伏できない。こいつはちょっとやそっとのタマじゃないから。」その人がそう言ってくれたので、私は殴られずに済みました。その人は私を食事に誘い、左翼学生だった自分がなぜ創価学会に入信したかを語ってくれました。中核派系学生だったという彼は「佐藤訪米阻止決戦」で機動隊の装甲車で轢殺された京大生：山崎博昭君の友人で、事件を機に人生について思い悩み、たまたま出会った「仏法書」に触発されて入信したとのことでした。私の毒づきは続き「それで池田教への入信は軽率でしょう。」などと言っても、その人は怒りもせずにやにや笑っていました。その人がのちの公明党参議院議員：白浜一良氏でした。

進学塾ビッグバンに、北朝鮮から韓国へ、韓国から日本に帰化した先生がいるのをご存じでしょう。彼は私の河合塾の教え子で、最も愛する教え子の一人であると同時に、ビッグバンでも

人気の高い実力派学生講師です。7月13日、このA先生を伴って、靖国神社に参拝して来ました。かねてより、靖国参拝はA先生の希望でした。彼は先の大戦で日本兵として戦った朝鮮人兵士のみたまに敬礼することを念願としていたからです。靖国神社は、日本国のために死んだすべての人たちを英霊として祀っています。そこに民族や宗教の差別はありません。私たちはこのまま平和の中で死んでも靖国に祀られる資格はありません。英霊ではないからです。

A先生とともに、拝殿に上がり、おはらいを受け、2礼2拍手そして願い事をし、一礼という簡素な儀式に参加しました。境内で、「光荣ある日本軍人として死んだ兄に会いに来ました」という台湾の元総統の李登輝氏の絵馬を見つけ、遊就館で展示物を見、特攻隊の肉声テープを聴き、おびたしい数の写真と辞世の句に触れ、涙を流してきました。A先生は、朝鮮人と思しい英霊の写真の前で敬礼し、「この人たちのお陰で、今の僕たちがこうして幸せに生きられるんですね。」と言いました。A先生と二人でビッグバン生全員の「学業成就」のお守りを買ひ、全員が、わが国の英霊たちに見守られて立派な医学徒になることを願いました。

A先生は、外国人地方参政権には、「永住外国人として納税の義務を果たしているし、日本社会に溶け込んでいるから、与えてもいいのではないか」とする微妙な考えを表明していますが、「しかし、外国人参政権を許してその後うまくいった国は一つもない」と言い、結局は「反対」の立場をとっています。私はここが重要だと思います。ヒステリックに「賛成」だの「反対」だのを叫んだとて、それはそれを言う人の立場と属性を問わず語りに語るに過ぎず、普遍的な意見たり得ない、ところがA先生の意見ははっきりと「国益」の観点から述べられています。正しいとか間違っているとか、ほしいとか、あげない、とかいった低レベルな観点ではなく、「国益」にかなうかどうか、もっと言えば、日本人として脳髓に健全なナショナリズムを宿しているかどうかを言い表しているからです。健全なナショナリズムは、統計と数字に裏打ちされた具体的な「国益」を背景にしていることを要求します。なぜ彼が若くしてこんなにも優れた識者になりえたか、それをA先生本人に聞いてみました。「小学校4年まで大阪朝鮮小学校にいました。日本語が禁じられ、金日成・金正日親子を崇拜する授業を受けてきました。ここ日本です。日本に住みながら日本を否定する教育を受ける。否が応でも「国とは何か」「国籍とは何か」を考える機会が多いじゃない

ですか。だから普通の日本人の小学生より、早熟の意識を養い続けてきたのだと思います。」まことに明快な答えが返ってきました。

それとともに、私たちが忘れていたものを思い出させてくれた気がしました。

全共闘も、左翼過激派も、創価学会も、皆世界を一気に考える、それはそれでスカッとすることだ。だが、待てよ、肝心なものが抜けていやしないか。そう、それは、日本の「国益」なんだ、つまり、まっとうなナショナリズムなんだ、と。寺脇研氏や、民主党政権の権力中枢にいる人々、特に国政や外交にたずさわる人々が、思想家、哲学者、ヒューマニストであることは、むしろ十分条件に属する。私たちはともすれば最低の必要条件たる「国益」を脳髓に持つことを忘れていたのではないか、と。

進学塾ビッグバンでは、7月10日に前期課程を修了し、第2回保護者会をはさんで翌12日からは前期の総復習たるブレイバックタームを行い、完全に前期の総括を行いました。16日にクラス分けテストを行い、20日から、その新しいクラスにて夏期講習会が連日行われています。梅雨が明けると、例年にも増してうだるような暑さが続き、体調不良をかこつ生徒も増え始めました。ただ長期欠席の生徒は皆無で、誰もがモチベーションの維持だけは果たしているようです。

8月は15日に第2回マーク模試が行われます。22日には大学フェアがあり、27日に後期クラス分けテスト、30日から後期課程が開始されます。ほとんど休みはありません。皆さんのご両親のように、国益に資する良医になる覚悟はおありでしょうか、と私は問いたい。親と100%うまく折り合う必要はありません。そんなことは親も望んでいません。それよりも、親は、まっすぐ目指すべき方向を見据えて自らの道をつけるために努力する姿を示してくれることをこそ望んでいます。それだけで、親は報われるのです。育児放棄の末、子どもを餓死させた事件を見れば、自分の過去の子育ての頃と付き合わせ、少なくともああならなかった自分を思い、少し自らを慰め、まだまだひ弱なわが子と、まだまだ長い道のりを共に歩まなければならないと覚悟し、辛い一日を始めるのが、親の普通のありようなのです。

そのあたり、しっかりと認識して、暑い夏の後半を乗り切ってください。受験生にとって最も辛い秋の季節はもうそこに来ていますから。

2010年7月末日

進学塾ビッグバン 松原好之(文責)